

改題 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 10月号 (NO90)

2017年10月10日 (火) 発行 (毎月10日)

【農暦】人間と雑草はおよそ一万年間、ずうっと一緒に！

○草の繁茂力に負ける話に私自身も少し食傷気味な気分になっている。そんな時に菜園仲間から雑草について目からウロコの情報を頂いた。“稲垣栄洋(*) vs ビートたけし達人対談、生き抜けば勝ち、雑草の戦略”のコピーが郵送されてきた。郵便物も嬉しかったが、優しい心遣いが嬉しかった。“人間が集落をつくって、農耕を始めると、強い植物は排除され<略>雑草はそこに生息地を見出したんです。耕されて根がちぎれても、そこからまた芽を出すなどの戦略を立ててきた。人間が広がっていけば広がっていくほど雑草の生息地も広がっていった。そうやって人間と雑草はおよそ一万年間、ずうっと一緒に暮らしてきたんです。”とあった。

○今、草の管理に難渋していると云うと、除草剤の散布を勧められる。昭和の30年代までは農家にとって草は大事な資源であった。共存関係であった。今で云う有機農家であった。レンゲ草はタブト(田太)と呼ばれ、文字通りの田を太らせる意味だった。マメ科で空中窒素を固定する根粒を持っている。今では緑肥という言葉もある。

○昭和天皇が雑草と云う草ないと言われた話は有名だが、草は農作業の使役に使われた牛馬の飼料で大事な資源であった。今では雑草は邪魔者でしかないと思われている。電化など科学技術の進展は過酷な農作業から解放したが失ったものも多い。その反省などから？有機農法、自然農法などがある。生産性の面からだと思うが普及率は1%にもならないと聞く。一万年の間続いたと云う雑草との関係は除草剤ではなく共存の方法を考えるべきと思っていたが、改めてその意を強くした。共存は草に負けることではない。難しいことである。雑草の繁茂力に負けてばかりでいると野菜も雑草のように強くあつて欲しいと思うのであるが、前述の稲垣栄洋は対談の中で、野菜との区別は人が見て邪魔と思ったものが雑草だという。春の七草は「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ」で前の五つは雑草で、スズナはカブ、スズシロは大根の別名で雑草ではない。自虐的に云った“雑草を栽培してます”も有(あり)なのかも知れない。

○こんなことを考えながら今ひたすら？除草を頑張っている。畑の姿が変わって来ている。泣き言や言い訳ではなく雑草との良い関係を築きたいものである。人間と一万年も続いているというのだ。もっといいものにしたい。除草作業も変わるような気がする。

*稲垣栄洋；静岡大学農学部教授、専門は雑草の研究。



<足踏み脱穀機>大分前に古
代米を。見学会で。25日撮影

【楽農】引きつづき畑周辺など除草！

<畑A>；トマト、菊、ネギ、コブ菜、枝豆など少量収穫。
周辺除草をの繰り返し。フラムや庭木の剪定など<ハウス
>；なし、<畑B>；小豆、黒豆、落花生、里芋の除草

【楽市】イベント交流・直売など

○イベントなど；詩吟県西大会（24日）石坂産業の見学会（25日）交歓吟詠・見学会（30日）共生つばさの会（5日）川柳の会（5日）に参加など。○その他；食用菊のお裾分け。

【つぶやき=Tweet】いろいろなものが牛久で繋がる！

○詩吟の会で牛久大仏、牛久シャトー、小川芋銭記念館をバスで見て回った。牛久大仏は浄土真宗の東本願寺派が建立した高さ120mの世界最大の大仏である。笠間の西念寺で

「教行信証」を書いた親鸞とゆかりの宗派である。最初に妻帯した僧侶でもあり近くに妻・玉日姫が祀られている。牛久シャトーは神谷伝兵衛が建設したワイン醸造場である。山岳部OB会の最後によく寄った浅草の電気ブレンダーが人気だった神谷バーはこの人の名であったのだ。帝国ホテル裏のガード下の飲み屋でもよく飲んでいて、試飲した電気ブレンダーはその時の味のままだった。

○小川芋銭は河童の絵で知っていたが、幸徳秋水と交流があり平民新聞に風刺画を送っていたと云う。牛久沼で採れたじゅん采を東京の友人に届けようと上野駅を降りた時、火炎瓶と間違えられ官憲に連行された。要注意人物としてマークされていたようだ。また、横山大観に認められ日本美術院同人になったという。雅号の芋銭は絵が芋を買うくらいの銭になればとの思いから付けたという。金持ちには高額で貧しい人にはタダであげたという。被差別部落をテーマした“橋のない川”の著者で牛久沼の辺に住んでいた住江すゑとも繋がりがあった。貧窮に喘いでいてお金の工面に行った住江に、“お金に換えなさいと絵一枚を渡した”。売った相手は吉川英二であったという。いろいろなものが牛久で繋がっている。驚きである。最近では稀勢の里で有名である。街おこしのコロッケでも知られている。

○道標づくりに賛同し費用の拠出をしたので小川芋銭の名を刻もうとしたら拒み“改善一歩”と刻ませた。売名的善意を極端に嫌ったという。今選挙が始まろうとしているが、私利が充満した社会はモンスターを生み、うつは10人に1人だという。弱者に優しい社会をと思う。現政権NGに、1票を使いたい。小川芋銭の生き方に触れその思いを強くした。

【後記】仲秋の月は素晴らしかった。笠間に。kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



<雑廃材処分>リサイクルに。25日撮影



<牛久大仏>30日撮影

発行者；kogure農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10